

# 平成26年度 図画工作科教育にかかわる現状と課題

部長 細 井 一 貞

## 1 図画工作科教育の動向

### (1) 郡市研究会における研修の状況

20の郡市それぞれが創意工夫し、講演会（6地区）、授業研究会（9地区）、実践交流会（1地区）、実技研修会（12地区）、作品鑑賞研修会（7地区）を実施し、図画工作科の振興と指導者の資質向上に努めている。その他、夏休み小中学生写生大会（1地区）、児童生徒作品展の実施（10地区）等にも取り組み、地域の図工・美術教育の振興に大きく貢献している。

今年度の特徴として、「授業研修会」と「児童生徒作品展」の増加が挙げられる。内容としては、小学校や中学校での実際の授業を参観し、「目の前の子どもたちの姿から学ぶ」という前向きな姿勢が感じられる。そのことが、各学校における授業改善につながっていくものと考えられる。

また、「児童生徒作品展」も各地区の実態に合わせて、積極的に展開され、地域への文化の発信を行っている。伝統的に実施している地区がほとんどだが、地域の行事（「雪祭り」など）との連携や幼稚園・保育園、中学校、高等学校、特別支援学校との連携も視野に入れて実施している地区も見られる。このことは、保護者や地域の方へのアピールとなり、感心を寄せていただくためのよい機会となっていると考える。また、校種を超えた連携という視点からも大事な取組である。さらに、その機会を作品鑑賞の研修の機会と捉えて活用している地区も多い。作品鑑賞の方法としては、ここ数年のうちに、「作者の意図や美術史などを一方的に伝達するような受動的な鑑賞活動」ではなく、「対話型鑑賞」や「ギャラリートーク」に代表されるように、コミュニケーションツールとしての作品の役割を大事にし、「他者との対話を通して、新たな意味や価値を見いだしていく主体的・創造的な鑑賞活動」が広がりを見せてきている。

### (2) 郡市研究会における研修の成果

どの地区でも新学習指導要領に対応した研修を実施している。キーワードとしては、「共通事項」、「言語活動」、「鑑賞の重視」である。

特に、上越地区では、平成27年度に開催が予定されている「新潟県美術教育研究大会」を見据え、研究テーマである「かかわる・かわる・つなぐ造形教育」のもと、計画的な研究が進められ、各地区の学校教育研究会の美術教育部会でもその取組を積極的に受け止めている。

また、糸魚川市では、県小研の指定（平成26年度～28年度）をもとに、全学年で図画工作科の授業公開を行い、「ワールドカフェ方式」の協議会を実施し、授業改善につなげている。

## 2 図画工作科教育の課題

図工・美術を専門とする教員が少なくなっていることは事実だが、小学校においては、すべての教員が図工の授業を指導することが基本である。各学校の図工部員だけの研修ということではなく、必要感をもっている教員すべてを対象として案内を周知すると共に、各校の管理職は、希望する職員が参加しやすい校内体制をとっていく必要がある。

今後ますます、限られた授業時数の中で、児童が自分の思いを生き生きと表現できる学習活動を展開するための題材設定や教師の支援の工夫、小中学校間の連携を意識した研究活動・授業交流が望まれる。